

Living Together Project

大家族構想

母性で支えるまちづくり



メッセージ

私は日本看取り士会が運営する桃太郎食堂という場を実際に訪れて感動しました。

ここは看取りが必要とされる人たちとその家族や支援者が集まるだけでなく、安価でおいしい食事や楽しい会話を楽しめる場所です。(中略)

このような交流の場は、いざ看取りが必要となったとき、顔なじみの関係ができ、地域の人たちで支え合える人間関係の土壌が形成される場だと思いました。

私はこの様な地域に開かれた食堂が、継続でき、そして他の地域にも広がることを願います。

日本保健医療大学 教授 小林美奈子 先生



日本の福祉の現状

2040年問題

日本

家族依存型



ヨーロッパ

政府依存型



アメリカ

市場依存型



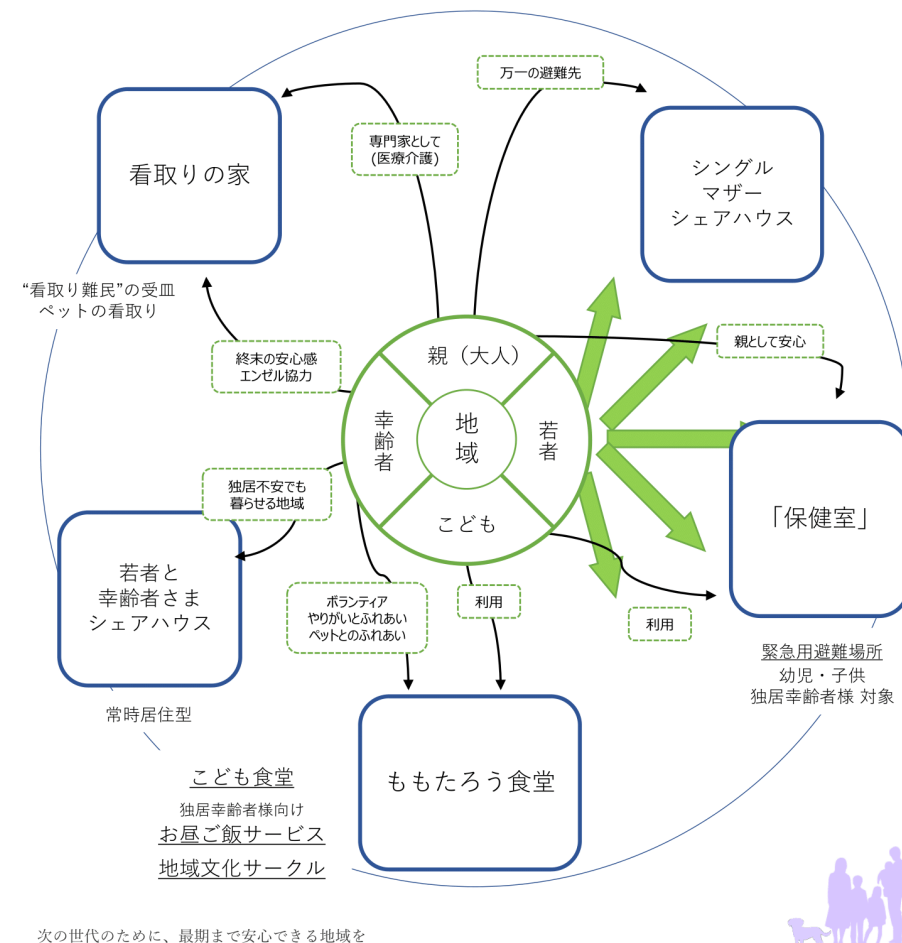
今日お伝えしたいこと

桃太郎食堂で見た「地域の母性」の力

孤立・貧困・看取り難民という今の現実

血縁をこえた「地域まるごとの家族」

具体的なモデル「大家族構想」



なぜ今、大家族構想か



孤立と貧困

家族形態の変化で
つながりが希薄に



看取りの不安

頼れる家族がいない
中高年の急増



看取り難民

住まいも支援先も
見つからない



2040年問題

高齢者人口ピーク
労働力不足と多死社会

描くまちの未来

一人でも
「ここで生きて、
ここで逝ける」

見守り・受容・寄り添い。
血縁を超えた母性的な地域をつくり
ます。



4つの理念

1. 血縁を超えた家族

地域全体を
一つの家族とみなす

2. お金より“関わり”

時間と役割の
分かち合いで支える

3. 母性の再生

困っている人を
放っておかない文化

4. 安心して死ねる

最期まで尊厳をもって
暮らせる環境

地域という大家族

4つの機能が暮らしを支えます



住
まい



食



看
取り



役
割

支え合う 4つの機能

🏠 住まい

多世代シェアハウス
若者・高齢者が共に暮らす

🍴 食・交流

地域の食堂
安価でおいしい食事と会話

💓 看取り

小さな拠点
家族不在でも安心の最期

📦 役割

出番をつくる
掃除・見守りで「支える側」へ

小さく始めて、育てる

STEP 1

食堂・交流

まずは人が集まる
居場所から



STEP 2

機能を拡大

住まい・保健室
看取りを追加



STEP 3

地域定着

行政・学校・企業と
無理なく連携

続けられる仕組み（収支）

初期投資

補助金・寄付・クラウドファンディング

多様な収入

家賃・食堂・委託事業など分散させる

ネットワーク

全国の仲間とノウハウや物品を共有

全国ネットワークで支える

全国のそれぞれの「大家族」を繋ぐ全国ネットワークを構築

地域モデル（現場）を支えるための2つの参加モデル



① 共有型

知識・ノウハウを共有

- ✓ ゆるやかな連携・つながり
- ✓ 食堂だけ・交流だけでもOK
- ✓ 地域独自のやり方を尊重



② 伴走型

安心の立ち上げ伴走

- ✓ 弁護士・保険のサポートあり
- ✓ 初期の不安を解消
- ✓ 看取りの家をしっかりと作る

原点：柴田久美子の実践

看取りの家の経験

「時間」と「思いやり」で
運営が成り立ちました。

3,000人の願い

「同じような拠点を作りたい」
その声を形にします。



日本の福祉を変える

現状の日本

家族依存型



将来の日本

地域の復権



岡山市役所からのコメント

行政の苦手を補完

- * 行政が苦手な横断事業（縦割りでは難しい）
- * 制度から零れ落ちる人の救い上げの期待
- * “つなぎ役（束ね役）”としての民間との協力

地域の空気の変化

- * 空家が福祉系に変わる例が増えている。
- * 「施設は来るな」から、受け入れの現実へ
- * 地域の“受け止め方”が変わりつつある

補助金は使って

- * 改修などに使える補助制度が市にはある
- * 行政としても「使ってほしい」
- * まずは「使える補助はある？」と聞いて

岡山モデル

このまちで「大家族構想」を
育てるために

一人もこぼれ落ちないまちづくり。
共に、実現に向けた一歩を。